

2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の成功に向けた決議（案）

2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）がいよいよ 4 月 13 日に開幕する。我が国では平成 17 年の愛知万博以来 20 年ぶり、大阪では昭和 45 年の大阪万博以来 55 年ぶりとなる一大国家プロジェクトである。

世界が危機に直面した新型コロナウイルス感染症の世界的流行を経て、社会全体で改めて「いのち」の大切さが問われる中で開催される大阪・関西万博は、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、158 もの国々が、世界が抱える課題の解決につながる英知や新たな未来を創り出すアイデアを持ち寄り、半年にわたって、ここ大阪に集結する。万博は国内外から訪れる多くの人々に大阪・関西の魅力を発信する絶好の機会になるだけでなく、会場内外で実装・実証される最先端技術が次世代へのレガシーとなって受け継がれていくなど、その開催意義は極めて大きい。

これまでの間、大阪府議会では、平成 29 年に万博誘致活動の指針を取りまとめ、各都道府県や府内各市町村の議会等に万博誘致に関する決議を要請するなど積極的な活動を推し進めた。日本（大阪）開催が決定した平成 30 年以降、3 回にわたり国に対して主導的な役割や全国的な機運醸成の加速などを求める意見書を提出した。

また、令和 5 年、会場建設費の 2 度目の増額の際には、大阪府議会では 25 年ぶりとなる議員全員協議会を開会し、経済産業省及び博覧会協会に対し出席を求め、一層厳格な執行管理とコスト縮減に努めていくことを確認した。

さらに大阪府議会では、入場券の価格や販売方法、各種割引制度に関する提案や、博覧会協会による会場建設費に係る執行状況の情報発信の要請、さらには、政府等に対して万博期間中のライドシェアの規制緩和に向けた要望活動を実施するなど、大阪・関西万博の成功に向けて様々な取組みを積極的に進めてきた。

こうした中、昨年 8 月には大阪・関西万博のシンボルである大屋根リングがつながり、本年 1 月には会場に直結する夢洲駅が開業、会場内では国内外のパビリオンが次々と完成するなど、開幕に向けて準備は着実に整ってきた。

大阪府議会は、府民の皆様とともに、万博期間中も大阪全体でその機運を大いに盛り上げ、国内外から訪れる多くの人々を温かくお迎えし、大阪の伝統や文化、芸術等を肌で感じ、また、万博で世界の価値観に触れ、未来への希望を感じていただけるよう、引き続き大阪・関西万博の成功に向けて全力で取り組んでいく。

以上、決議する。